

## 「生活支援ロボット実用化プロジェクト」(中間評価)に係る

### 評価項目・評価基準

#### 1. 事業の位置付け・必要性について

##### (1) NEDOの事業としての妥当性

- ・ 経済産業省が推進する「ロボット・新機械イノベーションプログラム」並びに内閣府が推進する「社会還元加速プロジェクト」目標達成のために寄与しているか。
- ・ 民間活動のみでは改善できないものであること、又は公共性が高いことにより、NEDOの関与が必要とされる事業か。
- ・ 当該事業を実施することによりもたらされる効果が、投じた予算との比較において十分であるか。

##### (2) 事業目的の妥当性

- ・ 内外の技術開発動向、国際競争力の状況、市場動向、政策動向、国際貢献の可能性等から見て、事業の目的は妥当か。

#### 2. 研究開発マネジメントについて

##### (1) 研究開発目標の妥当性

- ・ 内外の技術動向、市場動向等を踏まえて、戦略的な目標が設定されているか。
- ・ 具体的かつ明確な開発目標を可能な限り定量的に設定しているか。
- ・ 目標達成度を測定・判断するための適切な指標が設定されているか。

##### (2) 研究開発計画の妥当性

- ・ 目標達成のために妥当なスケジュール、予算(各個別研究テーマ毎の配分を含む)となっているか。
- ・ 目標達成に必要な要素技術を取り上げているか。
- ・ 研究開発フローにおける要素技術間の関係、順序は適切か。

##### (3) 研究開発実施の事業体制の妥当性

- ・ 適切な研究開発チーム構成での実施体制になっているか。

- ・ 真に技術力と事業化能力を有する企業を実施者として選定しているか。
- ・ 全体を統括するプロジェクトリーダー等が選任され、十分に活躍できる環境が整備されているか。
- ・ 目標達成及び効率的実施のために必要な実施者間の連携が十分に行われる体制となっているか。
- ・ 実用化シナリオに基づき、成果の受け取り手（ユーザー、活用・実用化の想定者等）に対して、関与を求める体制を整えているか。

#### (4)研究開発成果の実用化に向けたマネジメントの妥当性

- ・ 成果の実用化につなげる戦略が明確になっているか。
- ・ 成果の実用化につなげる知財マネジメントの方針が明確に示され、かつ妥当なものか。

#### (5)情勢変化への対応等

- ・ 進捗状況を常に把握し、社会・経済の情勢の変化及び政策・技術動向に機敏かつ適切に対応しているか。
- ・ 計画見直しの方針は一貫しているか（中途半端な計画見直しが研究方針の揺らぎとなっていないか）。計画見直しを適切に実施しているか。

### 3. 研究開発成果について

#### (1)中間目標の達成度

- ・ 成果は目標値をクリアしているか。
- ・ 全体としての目標達成はどの程度か。
- ・ 目標未達成の場合、目標達成までの課題を把握し、課題解決の方針が明確になっているか。

#### (2)成果の意義

- ・ 成果は市場の拡大或いは市場の創造につながることを期待できるか。
- ・ 成果は、世界初あるいは世界最高水準か。
- ・ 成果は、新たな技術領域を開拓することが期待できるか。
- ・ 成果は汎用性があるか。
- ・ 投入された予算に見合った成果が得られているか。
- ・ 成果は公開性が確保されているか。

#### (3)知的財産権等の取得及び標準化の取組

- ・ 知的財産権等の取扱（特許や意匠登録出願、著作権や営業機密の管理等）

は事業戦略、または実用化計画に沿って国内外に適切に行われているか。

- ・ 得られた研究開発の成果に基づく国際標準化に向けた提案等の取組は適切に行われているか。

#### (4)成果の普及

- ・ 論文の発表は、研究内容を踏まえ適切に行われているか。
- ・ 成果の受取手（ユーザー、活用・実用化の想定者等）に対して、適切に成果を普及しているか。また、普及の見通しは立っているか。
- ・ 一般に向けて広く情報発信をしているか。

#### (5)成果の最終目標の達成可能性

- ・ 最終目標を達成できる見込みか。
- ・ 最終目標に向け、課題とその解決の道筋が明確に示され、かつ妥当なものか。

\* 知的基盤・標準整備等の研究開発の場合

### 4. 実用化の見通しについて

#### (1)成果の実用化可能性

- ・ 開発している安全性検証手法はその目的に則した有用なものになっているか。
- ・ 開発している安全技術がロボットの実用化、に貢献できる見通しは立っているか。
- ・ 安全性検証手法として知的基盤を供給、維持するための体制は整備されているか、その見込みはあるか。
- ・ 国際規格化等、標準整備に向けた見通しが得られているか。
- ・ 一般向け広報は積極的になされているか。

#### (2)波及効果

- ・ 成果は関連分野への波及効果（技術的・経済的・社会的）を期待できるものか。
- ・ プロジェクトの実施自体が当該分野の研究開発や人材育成等を促進するなどの波及効果を生じているか。

\* (研究開発項目①生活支援ロボットの安全性検証手法の研究開発)

#### 4. 実用化の見通しについて

##### (1)成果の実用化可能性

- ・ 開発している安全性検証手法はその目的に則した有用なものになっているか。
- ・ 安全性検証手法として知的基盤を供給、維持するための体制は整備されているか、その見込みはあるか。
- ・ 国際規格化等、標準整備に向けた見通しが得られているか。
- ・ 一般向け広報は積極的になされているか。

##### (2)波及効果

- ・ 成果は関連分野への波及効果（技術的・経済的・社会的）を期待できるものか。
- ・ プロジェクトの実施自体が当該分野の研究開発や人材育成等を促進するなどの波及効果を生じているか。

\* (研究開発項目② 安全技術を導入した移動作業型（操縦が中心）生活支援ロボットの開発、③ 安全技術を導入した移動作業型（自律が中心）生活支援ロボットの開発、④ 安全技術を導入した人間装着（密着）型生活支援ロボットの開発、⑤ 安全技術を導入した搭乗型生活支援ロボットの開発)

#### 4. 実用化の見通しについて

##### (1)成果の実用化可能性

- ・ 開発している安全技術がロボットの実用化に貢献できる見通しは立っているか。
- ・ 一般向け広報は積極的になされているか。

##### (2)波及効果

- ・ 成果は関連分野への波及効果（技術的・経済的・社会的）を期待できるものか。

プロジェクトの実施自体が当該分野の研究開発や人材育成等を促進するなどの波及効果を生じているか。